

悲惨だった東日本大震災発生からもう5年になる。月命日には県警が震災行方不明者の集中捜索に取り組み、毎月メディアで報道されている。

一方、東日本大震災で県内において遺体で発見された4672人のうち、「家族のもとへ帰そう」という県警の懸命な努力にもかかわらず、いまだ59人の方の身元が判明していない。

「遺体が見つかったも、なぜ身元が判明しないのか。これは、資

日 報 論 壇

生前歯科情報保存を

菊 月 圭 吾

約500万人、約930万人

しかし、これらがデータ同様、カルテ同様、生前資料のデータベース化されていない。岩手県歯科医師会もともと日本では、震災から得た教訓として、災害に対応でき、DNA型・指紋・歯科所見が活用など、生前歯科情報引き取り手を待っている。オーストラリア南部州（人口約500万人）や人口現実味があり、日本の生前判明システムの一人のうちに、家族のもとへ帰そう」という県警の懸命な努力にもかかわらず、いまだ59人の方の身元が判明していない。

津波と火災で自宅や診療所もたたくさん消失し、これらの情報が必要なり失われてしまった。写真の有効性も言われ、これら情報の重要性が、震災を機に、歯科ではエックス線「お骨」になったり、戸籍上では生存したまま年齢化され、死体の情報もデータベースで管理され、パソコン上で把握

盛岡市 歯科医師 61歳